

「朝の読書大賞」優秀校に

松山高 20年間の取り組み評価

読書活動の推進に貢献した学校に贈られる第16回高橋松之助記念「朝の読書大賞」(高橋松之助記念顕彰財団主催)の受賞校がこのほど発表され、松山高(西條崇史校長)が優秀校に選ばれた。優秀校に選出されたのは全国で3校のみで、県内の高校では初めて。20年間にわたって生徒と教諭がつないできた取り組みが評価された。

全国で3校のみ選出

同校の朝読書は2004年に開始。教育計画の目標の一つに「全校朝読書の徹底」を掲げ、好きな本を開き、一斉



「朝の読書大賞」優秀校に選ばれた松山高の(右から)高橋生徒会長、西條校長

に読書する。同校は仙台藩主伊達家重臣、茂庭氏の屋敷跡の高台にあることもあって、この時間、校舎は静寂に包まれる。聞こえてくるのは鳥のさえずりやページをめくる音だけ。20年間で定着した朝の風景だ。

復興へ!
がんばろう
みやぎ

生徒会の高橋士恩会長(2年)は「毎朝当たり前のように行っていることが評価され驚いている」と喜び、「好きな小説を読んでいくが、読むペースが速くなった。本にもよるが、10分間でもかなりページが進む」と効果を実感。

学校司書の大場真紀さんによると、朝の読書の4原則①みんなやる②毎日やる③好きな本で良い④ただ読むだけーは、「簡単なようで実は難しい」と。「本を読むと感想文を書くなどの作業や効果が求められがちだが、それもない。だが、朝の読書で培われる集中力、想像力、3年間取り組んだという自己肯定感は今後の人生に生きてくると思う」と語る。西條校長は「開始時

間にすぐに読書に入る生徒たちに驚かされる。受賞は生徒と先生たちのこれまでの取り組みの成果」と話していた。

同校はこのほか、2008年と19年に子ども読書活動優秀実践校として文部科学大臣賞も受賞している。

朝の読書推進協議会の調査(5月31日現在)では、朝の読書を実施している学校は2万6228校(小学校1万5921校、中学校8169校、高校2138校)。宮城県は527校(小学校317校、中学校167校、高校43校)。

2023(令和5)年12月17日付

『大崎タイムス』より転載

※著作権者の許諾を頂き掲載しています。